

## 沖縄県立博物館・美術館WEB図鑑「岩石鉱物図鑑」の発信と活用

宇佐美 賢<sup>1)</sup>

Outreach and Utilization of the “Database of Rocks and Minerals of the Ryukyu Islands”

Ken USAMI<sup>1)</sup>

### 1. はじめに

平成30年度、平成31年度の沖縄県立博物館・美術館WEB図鑑発信事業において「岩石鉱物図鑑」を製作し、令和2年度特別展「岩石」の開催に合わせて当館のホームページ（<https://okimu.jp/>）に掲載し発信を開始した。「岩石鉱物図鑑」には、当館常設展示自然史部門展示室に展示中の沖縄県の地質図を中心に、自然史・地学分野の主な収蔵資料である岩石鉱物標本（一部の化石標本を含む）と展示資料、岩石薄片写真（顕微鏡写真）、野外の露頭写真（岩石鉱物の産状）やドローンによる露頭の空撮映像等を掲載している。また小中学生向け教育普及用ページも掲載している。つまり当館の地学分野収蔵資料及び関連資料のデジタルアーカイブである。発信開始から5年が経過し、閲覧した方からの問い合わせも増えてきた。本図鑑のさらなる活用促進のため本稿にてあらためて紹介したい。

### 2. 当館の地学分野の学芸員と収蔵資料

地学分野の収蔵資料の第1号は、1954年、当館の前身の一つである沖縄民政府立首里博物館時代に収蔵された「三葉虫化石 *Trilobita*」と「サメの歯の化石 *Carcharodon*」である（沖縄県立博物館，2002）。地学系資料が収蔵はされたが、地学分野担当職員の配置は人文系より遅く、1975年に大城逸朗氏が配置され、その後、1993年以降に地学専門の学芸員が継続して配置されるようになった（宇佐美，2026）。以降、地学分野の標本は琉球列島産出の標本を中心に現在まで収集され、令和7年3月末

現在、31,887点を収蔵した（沖縄県立博物館・美術館，2025）。また岩石薄片は、資料整理・薄片製作ボランティアである宮城宏之・宮城直樹の両氏の協力の下、当館が首里から現在的那覇市おもろまちへ移転してから現在までの18年間に1300枚以上を製作し収蔵した。当館の岩石薄片コレクションの詳細については、仲里・宮城（2015）を参照されたい。

### 3. 「岩石鉱物図鑑」制作の目的

収集した地質資料はデータベースに登録し管理している。またその一部は、常設展示されているが、多くは収蔵庫内で管理され地質系の展覧会を開催しない限り、表舞台に出ることは少ない。そこで、収集してきた岩石鉱物の標本、野外の採集地（露頭）の情報、岩石薄片から得られる顕微鏡下のミクロの世界等、当館に集積した地質情報をデジタル化し相互にリンクさせ発信することを目的に「岩石鉱物図鑑」（WEB図鑑）を製作した。

岩石薄片から得られる情報は造岩鉱物の種類と組織であり、岩石鉱物を同定する際に大変重要なものとなる。また野外の露頭情報も、岩石鉱物標本とともに岩石の成因や産状を知るうえで大変重要なものとなる。これらをデジタルアーカイブすることは沖縄県の地質財産を後世へ継承することとなる。

### 4. 「岩石鉱物図鑑」の構成

「岩石鉱物図鑑」のサイトマップを図1に示す。メインページ（図2）から、次の各サブページ①島の風景を見る、②露頭を探す（野外）、③岩石鉱

<sup>1)</sup> 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1

Okinawa Prefectural Museum & Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa 900-0006, Japan

物を探す(収蔵標本)、④顕微鏡写真を探す(薄片写真))へ目的に応じて移動し、閲覧・検索できる構成である。またそれらの各ページは相互にリンクしており、利用目的に応じてページ間を移動できる。メインページ以外に図鑑内コンテンツとして、キッズページ、用語の説明、沖縄の岩石鉱物とその魅力、顕微鏡でみる造岩鉱物の世界を紹介するページ等も掲載している。

## 5. 「岩石鉱物図鑑」の活用事例

「岩石鉱物図鑑」は、研究、教育機関等に幅広く利用いただけるものとする。学校現場では野外実習地の事前・事後学習や、岩石の薄片観察学習への活用も可能である。また県内各地の地形地質巡りの下調べにも活用可能である。当図鑑内に紹介パンフレットを掲載したので、本稿と合わせてご覧いただき紹介・活用いただけたら幸いである。令和2年度に発信を開始してから5年、本図鑑を学校の授業で活用した事例や、掲載した写真の授業での活用、出版社からの書籍への写真利用申請等が多数あった。

## 6. 「岩石鉱物図鑑」の今後

### (1) 掲載情報の追加と更新

掲載情報は、収蔵標本数や製作済の岩石薄片数と比較すると、まだ十分ではないが、担当者自身が常時、追加、更新可能な仕様なので、今後も追加更新し、内容の充実を図る。また展覧会図録掲載の要望も多い。原稿や写真の権利関係が整理できれば掲載する方向で検討したい。

### (2) 標本と露頭情報の収集、図鑑への掲載

沖縄県内に自然に、あるいは工事等によって新たな露頭が生じた際には、ぜひ当館までご連絡いただきたい。素晴らしい露頭が観察できた場所が、時間の経過とともに植生の繁茂や工事の進行等により観察が不可となった所は多数ある。観察できるうちに記録し、必要に応じて標本を採集し収蔵、当図鑑に掲載することで沖縄県の重要な地質財産の蓄積となる。

### (3) 様々な分野での今後の活用

当図鑑は地学系研究機関・教育機関等に幅広く利用していただくとともに、沖縄県の地質情報を記録することを目的としている。また考古学における石

器の石材の比較や、学校現場への岩石薄片の貸し出しの際の参考リストとしても活用できることを目指す。さらに岩石鉱物の調査研究だけでなく、石や島が好きな観光客の方には新しい島や岩石の魅力探し等、様々な用途・分野に活用できる図鑑を目指し引き続き更新していきたい。

## 7. 謝辞

岩石鉱物図鑑の製作にあたり、県内各地における標本収集、撮影、調査の際には、各市町村教育委員会をはじめ、関係各位に便宜を図っていただいた。また開発・製作・発信にあたっては沖縄セルラーアグリ&マルシェ株式会社の塩釜氏に大変お世話になった。地学系収蔵資料は歴代学芸員の資料収集の積み重ねの成果である。岩石薄片は資料整理ボランティアの宮城宏之氏、宮城直樹氏の尽力によるものである。以上、関係各位に感謝御礼申し上げる。

## 8. 引用文献・参考文献

- 仲里健・宮城宏之. 2015. 沖縄県立博物館・美術館の岩石薄片コレクション. 沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要. No.8, pp.1-12.
- 沖縄県立博物館. 2002. 改定 沖縄県立博物館 収蔵品目録上巻 (1947~1980年度).
- 沖縄県立博物館. 2020. 令和2年度特別展「岩石」図録.
- 沖縄県立博物館. 2024. 令和6年度企画展「琉球列島 地質・化石展」図録.
- 沖縄県立博物館・美術館. 2025. 博物館企画展「新収蔵品展—令和6年度収蔵資料—」.
- 宇佐美賢. 2026. 地学の目で見た琉球・沖縄・博物館の魅力. 沖縄県立博物館友の会誌「博友」. 第36号.

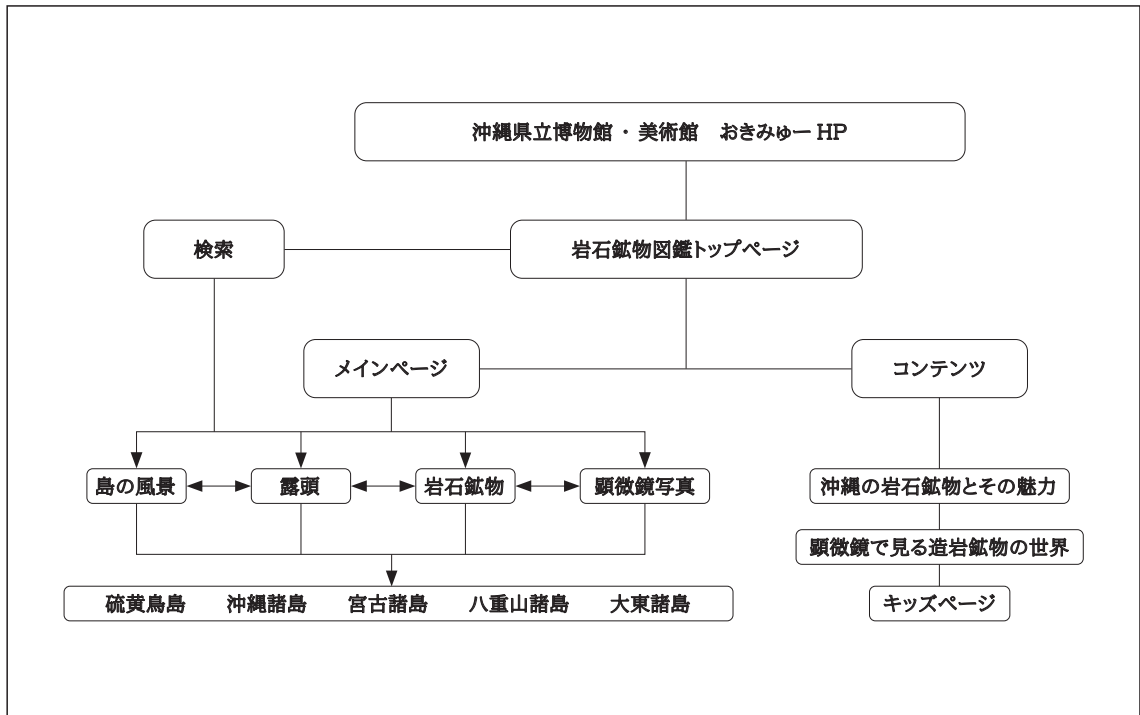


図1 「岩石鉱物図鑑」 サイトマップ

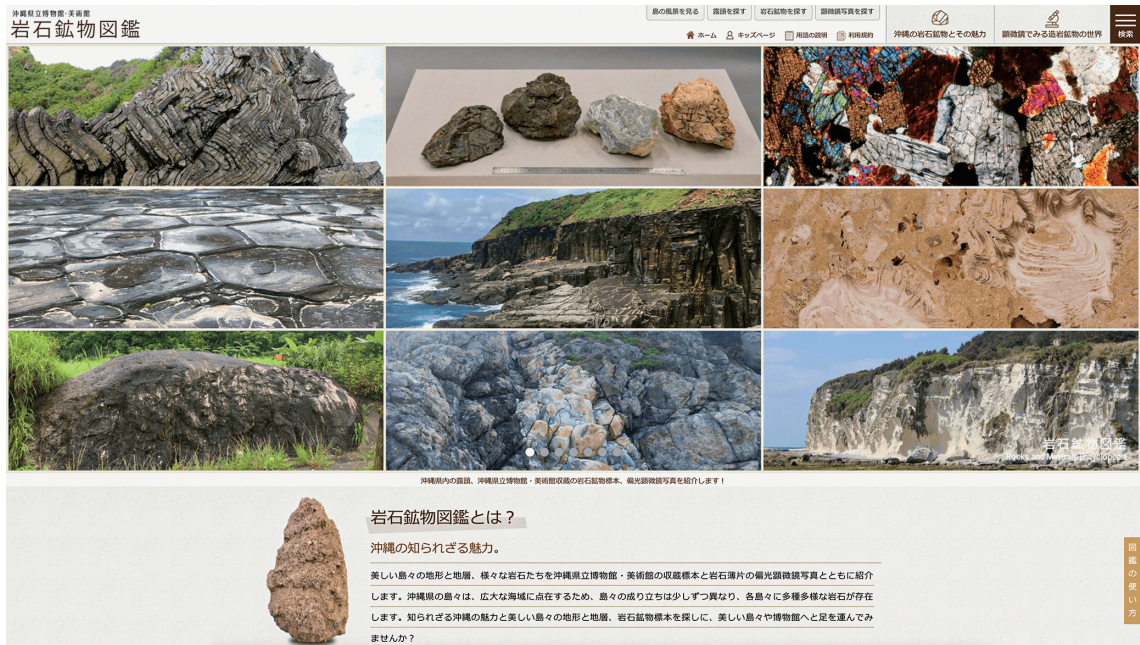


図2 「岩石鉱物図鑑」 トップページ  
<https://okimu.jp/ganseki/>